
呪いの人形

kaji

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪いの人形

【Nコード】

N4191K

【作者名】

kaj1

【あらすじ】

ある日おかしな人形を売っている女の子に出会った。僕はその人形を受け取ってしまった。それが不幸の始まりだった。

これは僕が本当に体験した話です。この間駅の地下道で変な人形を並べている女の子に会ったのです。他の人は怪訝な表情をしながら見なかったことにして通り過ぎていました。

その人形というのが触っただけで呪われそうな人形で何かの人形らしいが全然可愛くないし、むしろ気持ちが悪いものでした。なんていうか鳥なのか犬なのか判別がつかない何とも表現しにくい人形なのです。

その人形を並べている女の子もおかしな格好で野球帽にぐりぐり眼鏡。どこで買ったのだと聞きたいくらい黄色い蛍光色のジャンパーに何色なのか分からないジーパンを履いていて分厚い本を読みながら座っていました。

看板が置いているのですがそこには『買ってください。いやむしろもらってください』と意味不明の言葉が書かれていました。売る気があるのか無いのかさっぱり分かりません。

僕はなぜか興味が惹かれてその女の子に話しかけてしまいました。たぶん魔が差してしまったのだと思うのだけれどどうしても話しかけずにはいられなかったのです。ありますよね。そういう時って。

「あの……。その人形って……。何の人形何ですか？」

「ん。おー！　いらっしやい。らっしやい。どうぞ。どうぞ。心行くまで見てみてください。むしろもらっちゃってください」

水を得た魚のようにその女の子が生き生きとした感じで喋り始めました。嫌な予感はしたのですが僕はその場から去ることができませんでした。本当はここで僕はここで立ち去ればよかったのですが変に興味心を刺激されてしまってその場から立ち去れませんでした。

「そうじゃなくてこの人形って何の人形なのですか？」

「ド……。こほん。特にモチーフはありません。私のオリジナルキヤラですよ。差し上げますから遠慮なくどうぞ」

女の子に無理やり人形を押し付けられました。いらなかったので返そうとしたらその女の子にこのように言われました。

「私は私の作品をみんなにアピールしたい。それだけです。助けると思ってどうか受け取ってください」

にっこりと笑う女の子。僕は何も言えませんでした。仕方が無くその人形を持って帰ることにしました。僕は自分の部屋のテレビの上に置きましたがどうも見られているような感じがしてどうも落ち着きませんでした。でも捨てれば不幸なことが起きそうな気がしましたので我慢してそのまま置いておくことにしました。

次の日。まだ居るのかなと思って駅の地下道に行くと女の子は昨日所にいました。話しかけてみるとおかしいことを言い出しました。

「何もおきませんでしたか？」

「それってどういうこと!？」

「いえ。いえ。それならいいんです」

「何かすごい気になるんですけど……」

「お気になさらず。そうだ! 今日帰ったら後ろのジッパーを開けてみてください」

「開けると何かあるの?」

「開けてからのお楽しみです」

アパートに帰って開けてみることにした。気が付かなかったが確かに人形の背中にはジッパーが付いていた。僕はおそろおそろジッ

パーを開けてみました。そこには一通の茶封筒が入っていました。開けてみるとそこには。

『はずれ。残念でした』

と書いてありました。

僕の怒りは頂点に達しました。こんな屈辱は小学生のときに背中に壊れ物と書かれた紙を張られて校内一周させられた時以来の屈辱です。

「あの糞女がー！」

すぐさま僕は全速力で彼女のところに向かいました。しかし、駅の地下道まで行きましたが彼女はいませんでした。代わりに一通の封筒が残されていました。

『引っかってやんの。ばーか。もう会うことはないでしょう。アデュー』

僕の怒りは行き場を失いました。僕はその場に崩れ落ちました。何かを失ったそんな気がしました。僕はその日は浴びるようにお酒を飲みました。とても飲まなくてはやっていけなかったからです。次の日もその次の日も彼女は駅の地下道には現れませんでした。たぶんもう彼女はあの町には来ることは無いのでしょう。その後僕に起きた出来事は……言いたくありません。

今もどこかで変な人形を配っている女子がいると言います。僕たちの忠告ですが彼女には話しかけないことです。間違って話しかけてしまっても人形はもらわないことです。あなたは全てを失うこと

になります。これは私からの忠告です。

(後書き)

ご拝読ありがとうございます。

昔のメモがありましたので良さそうだったので書いてみました。
よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4191k/>

呪いの人形

2010年10月15日22時46分発行